

日高北部 01 の結果概要

地区名：日高上部 25 林班い 2 小班

2018 年 7 月 18 日調査実施

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
針広混交林		斜面		西	1	2	2016 年	8.2	累積	4.3	シカ道・足跡
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)		
	39 /200 m ²	57.2 m ² /ha		22 /200 m ² 食痕: 13/22 59%			12 /200 m ²		4/32 13%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²		
	25 /200 m ²	13/25 52%				38	40%・57・75%		58.1% ・ 0.29		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
トドマツ	5	3,652	2	
エゾマツ	1	2,703		
キハダ	3	988		1
キタコブシ	3	650	2	
オニグルミ	1	544		
総計	43	10,000	31	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
アオダモ	11	5
ハクウンボク	5	3
ミズナラ	3	1
ヤマモミジ	3	3
ツリバナ	2	1
総計	27	13

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.254	40	57.1	15
ゴンゲンスゲ	4	0.017	7	21.5	0
イトアオスゲ	10	0.007	4	14.3	0
オンダ	2	0.005	1	35.0	0
ツルアジサイ	10	0.001	1	6.3	0



日高北部 01 は、日高上部地区の林道沿いの針広混交林に設定された。周辺の SPUE は 8.2 と高い。調査時にシカ道、足跡等の痕跡が確認された。針葉樹のトドマツ、エゾマツが優占し、キハダ、キタコブシなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生～密生し、ゴンゲンスゲなどが混生する。

立木の本数密度は 39 本、下枝本数は 22 本だった。下枝食痕率は 59%だった。新規の樹皮剥ぎ率は 13%だった。広葉樹の稚樹は 25 本/200 m²、食痕率は 52%だった。林床のクマイザサの被度は 40%、林床の現存量の指数は 0.29 だった。ササの食痕率は 75%と高かった。シカによる各種の食痕率は高く、下枝、稚樹など林分構造や林床植生への影響が現われつつある。また、ササの食痕率が高いことから、小規模な越冬集団がいる可能性が高い。

日高北部 02 の結果概要

地区名：日高上部 6 林班い 3 小班

2018 年 7 月 18 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面	北	1	2	2016 年 3.1	累積 3.2	シカ道・足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	39 /200 m ²	29.7 m ² /ha	23 /200 m ² 食痕:15/22 65%			17 /200 m ²	0/37 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	30 /200 m ²	11/30 37%			34	53%・74・0%	67.3% ・ 0.46	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ミズナラ	2	1,555		
イタヤカエデ	6	1,008	2	
モイワボダイジュ	5	942	4	
エゾマツ	1	788		
シウリザクラ	1	630		
総計	39	5,948	23	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
サウシバ	13	7
アオダモ	10	
ヤマモミジ	3	2
キタコブシ	2	
シナノキ	1	1
総計	30	11



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.407	53	74.0	0
オシダ	4	0.022	4	45.3	0
フッキソウ	17	0.005	2	18.6	1
ヒトリシズカ	7	0.003	1	20.3	0
オクノカンスゲ	6	0.003	1	23.2	0

日高北部 02 は、日高上部地区の林道沿いの針広混交林に設定された。周辺の SPUE は 3.1 となっている。調査時にシカ道、足跡等の痕跡が確認された。ミズナラ、イタヤカエデなどの広葉樹とエゾマツなどの針葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生～密生し、オシダなどが混生する。

立木の本数密度は 39 本、下枝本数は 23 本だった。下枝食痕率は 65% だった。新規の樹皮剥ぎは確認されなかった。広葉樹の稚樹は 30 本/200 m²、食痕率は 37% だった。林床のクマイザサの被度は 53%、林床の現存量の指数は 0.46 だった。ササの食痕率は 0% だった。下枝や稚樹の食痕率が高く、今後、下枝や稚樹の減少という形で影響が現われてくる可能性がある。

日高北部 03 の結果概要

地区名：日高上部 1019 林班い 1 小班

2018 年 7 月 18 日調査実施

林相		地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		斜面		北	1	2	2016 年 2.4		累積 4.0	シカ道
毎木	本数密度	総 BA		下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	63 /200 m ²	40.2 m ² /ha		32 /200 m ² 食痕 :25／32 78%			27 /200 m ²		2／56 4%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²	
	2 /200 m ²	2／2 100%				36	35%・61・0%		41.4% ・ 0.24	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
シナノキ	11	3,038	6	
ホオノキ	3	1,662	1	
アオダモ	13	1,363	8	1
イヌエンジュ	2	628		
ハウチワカエデ	17	379	13	
総計	63	8,038	36	2

稚樹調査結果

種名	本数(本)	食痕あり (本)
トドマツ	16	
エゾマツ	2	
シナノキ	1	1
ミヤマザクラ	1	1
総計	20	2

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	20	0.220	35	61.1	0
トドマツ	10	0.006	1	26.0	0
ゴンゲンスゲ	5	0.001	1	15.0	0
マイヅルソウ	18	0.001	1	7.4	0
ハウチワカエデ	6	0.001	0	22.0	1



日高北部 03 は、日高上部地区の林道沿いの針広混交林に設定された。周辺の SPUE は 2.4 (累積は 4.0) となっている。調査時にシカ道が確認された。針葉樹は少なく、シナノキ、ホオノキなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生～密生し、トドマツの稚樹などが混生する。

立木の本数密度は 63 本、下枝本数は 32 本だった。下枝食痕率は 78%と高かった。新規の樹皮剥ぎ率は 4%だった。広葉樹の稚樹は 2 本/200 m²と少なく、食痕率は 100%だった。林床のクマイザサの被度は 35%、林床の現存量の指数は 0.24 だった。ササの食痕率は 0%だった。広葉樹の稚樹はすでに数が少ないが、下枝の食痕率が高いことから今後、下枝も減少する可能性がある。

日高北部 04 の結果概要

地区名：日高中部 1078 林班い 4 小班

2018 年 7 月 18 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		沢沿い斜面	東	1	2	2016 年 3.1	累積 4.1	シカ道・足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	48 /200 m ²	40.9 m ² /ha	29 /200 m ² 食痕:20/29 69%			24 /200 m ²	3/47 6%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	3 /200 m ²	2/30 67%			13	49%・72・0%	59.0% ・ 0.40	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
シナノキ	11	5,051	7	
モイワボダイジュ	2	1,801	2	
ホオノキ	3	384		
アオダモ	19	221	14	2
ハリギリ	1	202		
総計	48	8,174	29	3

稚樹調査結果

種名	本数(本)	食痕あり (本)
ミズナラ	2	1
イタヤカエデ	1	1
総計	3	2

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.359	49	72.2	0
オシダ	13	0.037	8	38.3	0
フッキソウ	12	0.002	1	18.2	0
ミズナラ	9	0.001	0	19.4	0
コンロンソウ	2	0.001	0	29.0	0



日高北部 04 は、日高中部地区の林道沿いの落葉広葉樹林に設定された。周辺の SPUE は 3.1 (累積は 4.1) となっている。調査時にシカ道や足跡が確認された。シナノキ、モイワボダイジュなどの広葉樹が混生する。林床はミヤコザサが散生～密生し、オシダなどが混生するが量は少ない。

立木の本数密度は 48 本、下枝本数は 29 本だった。下枝食痕率は 69% と高かった。新規の樹皮剥ぎ率は 6% だった。広葉樹の稚樹は 3 本/200 m² と少なく、食痕率は 67% だった。林床のミヤコザサの被度は 49%、林床の現存量の指数は 0.40 だった。ササの食痕率は 0% だった。広葉樹の稚樹はすでに数が少ないが、下枝の食痕率が高いことから今後、下枝も減少する可能性がある。

日高北部 05 の結果概要

地区名：日高中部 1093 林班ち小班

2018 年 7 月 17 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)	エゾシカの痕跡
針広混交林	平坦		1	2	2016 年 3.1	累積 4.1 個体 2・シカ道・足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)
	44 /200 m ²	46.4 m ² /ha	25 /200 m ² 食痕: 13 / 25 52%		18 /200 m ²	1 / 41 2%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²
	0 /200 m ²	0 / 0 -%		36	14%・37・20%	30.8% ・ 0.09

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
イタヤカエデ	16	2,458	8	
トドマツ	1	1,752		
アサダ	4	1,325		
ハリギリ	1	1,284		
ミツデカエデ	6	919	6	
総計	44	9,278	26	1

稚樹調査結果

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
トドマツ	1	
総計	1	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
ミヤコザサ	20	0.053	14	36.9	4
フッキソウ	18	0.015	6	22.0	0
ゴンゲンスゲ	6	0.011	5	19.3	1
オククルマムグラ	4	0.002	1	19.3	0
クルマバソウ	8	0.002	1	16.0	0



日高北部 05 は、日高中部地区の林道沿いの針広混交林に設定された。周辺の SPUE は 3.1 (累積は 4.1) となっている。調査時にシカ 2 個体、シカ道や足跡が確認された。イタヤカエデなどの広葉樹とトドマツが混生する。林床はミヤコザサが散生し、フッキソウなどが混生する。

立木の本数密度は 44 本、下枝本数は 25 本だった。下枝食痕率は 52% だった。新規の樹皮剥ぎ率は 2% だった。広葉樹の稚樹は 0 本/200 m² だった。林床のミヤコザサの被度は 14%、林床の現存量の指数は 0.09 だった。ササの食痕率は 20% だった。広葉樹の稚樹は消失し、林床植生もすでにかなり衰退している。下枝の食痕率も高いことから今後、下枝も減少する可能性がある。

日高北部 06 の結果概要

地区名：日高中部 1180 林班た小班

2018 年 7 月 19 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
広葉樹林		斜面(尾根)	東	1	2	2016 年 3.1	累積 3.7	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	51 /200 m ²	41.5 m ² /ha	27 /200 m ² 食痕:12/27 44%			11 /200 m ²	0/49 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	5 /200 m ²	3/5 60%			51	35%・34・0%	47.7% ・ 0.17	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ミズナラ	3	2,555	1	
アカイタヤ	6	1,787	2	
アサダ	12	1,144	7	
ハルニレ	2	1,040	1	
イタヤカエデ	4	422	1	
総計	51	8,307	29	

稚樹調査結果

種名	本数(本)	食痕あり (本)
カツラ	3	3
イヌエンジュ	1	
サワシバ	1	
総計	5	3

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.125	35	34.0	0
カノツメソウ	20	0.013	3	34.0	1
イヌワラビ	12	0.003	2	16.3	0
ハエドクソウ	12	0.002	1	16.6	0
サワシバ	4	0.012	1	84.3	0



日高北部 06 は、日高中部地区の林道沿いの落葉広葉樹林に設定された。周辺の SPUE は 3.1 (累積は 3.7) となっている。調査時にシカ道が確認された。ミズナラやアカイタヤなどの広葉樹が混生する。林床はミヤコザサが散生～密生し、カノツメソウなどが混生するが量は少ない。

立木の本数密度は 51 本、下枝本数は 27 本だった。下枝食痕率は 44% だった。新規の樹皮剥ぎは確認されなかった。広葉樹の稚樹は 5 本/200 m²、食痕率は 60% だった。林床のミヤコザサの被度は 35%、林床の現存量の指数は 0.17 だった。ササの食痕率は 0% だった。広葉樹の稚樹は減少し、林床植生もすでに衰退している。下枝の食痕率も高いことから今後、下枝も減少する可能性がある。

日高北部 07 の結果概要

地区名：日高下部 1232 林班と小班

2018 年 7 月 19 日調査実施

林相			地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
広葉樹林			斜面	東	1	2	2016 年	1.9	累積	4.0	シカ道・足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率				小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)		
	35 /200 m ²	24.9 m ² /ha	21 /200 m ² 食痕 :15／21 71%				15 /200 m ²		0／34 0%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²			
	5 /200 m ²	5／5 100%			37	40%・56・0%		61.8% ・ 0.37			

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積の合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ヤチダモ	2	1,578		
オオバボダイジュ	3	1,161		
クリ	1	796		
ニガキ	2	463		
ハクウンボク	1	238		
総計	35	4,971	22	

稚樹調査結果

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
シウリザクラ	2	2
ニガキ	2	2
ヤマモミジ	1	1
総計	5	5

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
ミヤコザサ	18	0.245	40	56.4	0
オシダ	13	0.109	15	50.2	1
ムカゴイラクサ	10	0.002	1	13.9	3
コンロンソウ	11	0.002	1	24.3	3
フッキソウ	12	0.001	1	17.8	0



日高北部 07 は、日高下部地区の林道沿いの落葉広葉樹林に設定された。周辺の SPUE は 2 以下 (累積は 4.0) となっている。調査時にシカ道や足跡が確認された。ヤチダモやオオバボダイジュなどの広葉樹が混生する。林床はミヤコザサが散生～密生し、オシダなどが混生する。

立木の本数密度は 35 本、下枝本数は 21 本だった。下枝食痕率は 71% だった。新規の樹皮剥ぎは確認されなかった。広葉樹の稚樹は 5 本/200 m²、食痕率は 100% だった。林床のミヤコザサの被度は 40%、林床の現存量の指数は 0.37 だった。ササの食痕率は 0% だった。現在の SPUE はそれほど高くないが、下枝や稚樹の食痕率が高く、今後、さらに下枝や稚樹が減少する可能性がある。林床植生もミヤコザサ以外はすでに衰退が進んでいる。

日高北部 08 の結果概要

地区名：日高下部 1228 林班い 1 小班

2018 年 7 月 19 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		平坦	東	2	2	2016 年 7.5	累積 3.7	シカ道・足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	21 /200 m ²	29.8 m ² /ha	9/200 m ² 食痕 :13/21 72%			13 /200 m ²	0/38 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	2 /200 m ²	2/2 100%			39	28%・58・0%	72.1% ・ 0.34	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
シナノキ	5	6,010	1	
エゾマツ	2	1,595		
シウリザクラ	3	1,171	2	
トドマツ	1	1,154		
ハルニレ	2	764	2	
総計	41	11,915	18	

稚樹調査結果

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
カツラ	1	1
シウリザクラ	1	1
総計	2	2

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
ミヤコザサ	20	0.163	28	57.9	0
オシダ	13	0.071	14	47.9	6
ジュウモンジシダ	11	0.040	8	44.3	0
サップロスゲ	16	0.016	6	22.4	1
ムカゴイラクサ	14	0.007	3	19.0	7



日高北部 08 は、日高下部地区の林道沿いの針広混交林に設定された。周辺の SPUE は 7.5 (累積は 3.7) となっている。調査時にシカ道や足跡が確認された。ヤチダモやオオバボダイジュなどの広葉樹が混生する。林床はミヤコザサが散生～密生し、オシダなどが混生する。

立木の本数密度は 21 本、下枝本数は 9 本だった。下枝食痕率は 72% だった。新規の樹皮剥ぎは確認されなかった。広葉樹の稚樹は 2 本/200 m²、食痕率は 100% だった。林床のミヤコザサの被度は 28%、林床の現存量の指数は 0.34 だった。ササの食痕率は 0% だった。現在の SPUE はかなり高く、下枝や稚樹の食痕率が高く、今後、さらに下枝や稚樹が減少する可能性がある。林床植生も、オシダなどには食痕も多く、ミヤコザサ以外はすでに衰退が進んでいる。

日高北部 09 の結果概要 地区名:日高下部 2038 林班り小班 2009 年 9 月 18 日/2018 年 7 月 17 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		緩斜面	西	1 1	2 2	2009 年 4.8 2018 年 2.4	累積 3.5 累積 4.7	シカ道 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	110 /200 m ²	36.3 m ² /ha	70 /200 m ² 食痕 : 69 / 70 99%			87 /200 m ²	26 / 104 25%(25%)	
	77 /200 m ²	45.6 m ² /ha	31 /200 m ² 食痕 : 15 / 31 48%			50 /200 m ²	8 / 72 11%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	38 /200 m ²	37 / 38 97%			43	21%・47・69%		109.0% ・0.37
	57 /200 m ²	53 / 57 93%			67	15%・54・ 0%		72.4% ・0.30

※数値の上段は 2009 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
エゾマツ	2	3,270		
シウリザクラ	4	1,625	1	
ハシドイ	16	1,252	9	1
ホオノキ	3	1,117	1	
ハクウンボク	3	545	1	
総計	77	9,129	33	8

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
シウリザクラ	46	44
トドマツ	11	
アオダモ	5	4
サワシバ	3	3
アサダ	2	1
総計	68	53

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	16	0.092	15	53.6	0
オクノカンスゲ	12	0.047	14	30.3	2
サッポロスゲ	8	0.049	13	38.8	4
オシダ	15	0.055	10	42.7	2
フッキソウ	18	0.020	9	18.0	0



日高北部 09 は、日高下部地区の林道沿いの針広混交林に設定されている。前回の SPUE は 4.8 だが、今回は 2.4 となっている。調査時にシカ道が確認された。エゾマツが優占し、シウリザクラやハシドイなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生し、スゲ類などが混生する。

立木の本数密度は 110 本から 77 本、下枝本数は 70 本から 31 本にそれぞれ大きく減少した。下枝食痕率は 99% から 48% に減少した。新規の樹皮剥ぎ率は 25% から 11% に減少した。広葉樹の稚樹は 38 本/200 m² から 57 本/200 m² に増加、食痕率は 97% から 93% と高止まりした。林床のクマイザサの被度は 21% から 15% に減少、ササの食痕率は 69% から 0% に減少した。下枝や稚樹の食痕率が高く、今後、下枝や稚樹が減少する可能性がある。

日高北部 10 の結果概要 地区名:日高下部 2019 林班る小班 2009 年 9 月 30 日/2018 年 7 月 17 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林		緩斜面	東	1	2	2009 年	6.9	累積 5.2	なし シカ道
				1	2	2018 年	5.6	累積 6.5	
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	98/200 m ²	45.1 m ² /ha	51 /200 m ² 食痕: 1 / 51 2%			63/200 m ²		0 / 95 0%(0%)	
	79 /200 m ²	48.2 m ² /ha	47 /200 m ² 食痕: 12 / 47 26%			46/200 m ²		1 / 76 1%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²	
	36/200 m ²	1 / 36 3%			17	51%・51・5%		65.0% ・0.34	
	7/200 m ²	1 / 7 14%			41	35%・56・5%		51.4% ・0.29	

※数値の上段は 2009 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

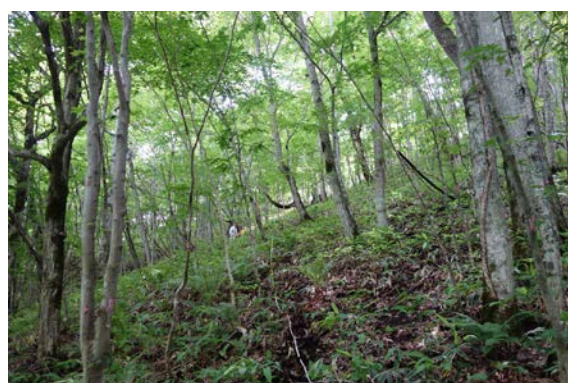
種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
アサダ	5	2,967	1	
サワシバ	37	1,567	28	1
ダケカンバ	2	1,392	1	
ホオノキ	2	1,045	1	
カツラ	2	826		
総計	79	9,645	47	1

稚樹調査結果

種名	本数(本)	食痕あり (本)
サワシバ	3	1
ヤマモミジ	3	
ハシドイ	1	
総計	7	1

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ミヤコザサ	20	0.207	35	56.5	1
オシダ	16	0.042	8	36.1	0
ジュウモンジシダ	5	0.013	3	38.4	0
サワシバ	4	0.017	1	103.0	1
コンロンソウ	9	0.002	1	19.3	1



日高北部 10 は、日高下部地区の林道沿いの針広混交林に設定されている。前回の SPUE は 6.9、今回は 5.6 となっている。調査時にシカ道が確認された。アサダやサワシバなどの広葉樹が混生する。林床はミヤコザサが散生～密生し、オシダやジュウモンジシダなどが混生する。

立木の本数密度は 98 本から 79 本、下枝本数は 51 本から 47 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 2%から 26%に増加した。新規の樹皮剥ぎ率は 0%から 1%とわずかに変化した。広葉樹の稚樹は 36 本/200 m²から 7 本/200 m²に減少、食痕率は 3%から 14%に増加した。林床のミヤコザサの被度は 51%から 35%に減少、ササの食痕率は前回、今回とも 5%だった。下枝や稚樹の食痕率はまだそれほど高くないが、SPUE が高止まりしており、今後、下枝や稚樹が減少する可能性がある。

上川北部 01 の結果概要

地区名：風連・班溪 1132 林班ぬ小班

2018 年 7 月 23 日調査実施

林相			地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林			斜面	南東	1	2			累積 1.5	シカ道・足跡・糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率				小径木 5cm未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	86 /200 m ²	70.3 m ² /ha	50/200 m ² 食痕 :23／50 46%				38 /200 m ²	0／74 0%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²		
	55 /200 m ²	20／55 36%			51	42%・126・30%		85.4% ・ 0.92		

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
シナノキ	8	2,576		7
ハリギリ	2	2,244		
イタヤカエデ	11	2,177		6
ケヤマハンノキ	4	1,658		2
トドマツ	9	1,151		1
総計	86	14,068		52

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	20	0.524	38	125.7	6
ハウチワカエデ	7	0.129	8	123.8	2
シラネウラボ	4	0.027	5	48.3	0
クマイザサ	11	0.047	4	99.2	0
シナノキ	3	0.048	4	131.3	2

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
シウリザクラ	17	9
ハウチワカエデ	13	3
イタヤカエデ	10	5
シナノキ	5	1
トドマツ	5	
総計	61	20



上川北部 01 は、風連・班溪地区の林道沿い斜面の針広混交林に設定された。周辺の SPUE は累積 1.5 と低い、調査時にシカ道、足跡、糞の痕跡が確認された。主にシナノキ、イタヤカエデの広葉樹と針葉樹のトドマツが混交する。林床はチシマザサが散生～密生するほか、クマイザサも一部に散生する。

立木の本数密度は 85 本、下枝本数は 50 本だった。下枝食痕率は 46%だった。新規の樹皮剥ぎ率は 0%だった。広葉樹の稚樹は 55 本/200 m²でシウリザクラやハウチワカエデが多く、食痕率は 36%だった。林床の総被度は 85.4%でチシマザサの被度は 38%、林床の現存量の指数は 0.92 だった。ササの食痕率は 30%だった。シカによる各種の食痕率はいずれも 3 割を超えて比較的高い。現状では、下枝や稚樹は豊富だが、今後、シカによる被食が継続されれば、林分構造や林床植生への影響が現われる可能性がある。

上川北部 02 の結果概要

地区名：風連・班溪 1123 林班お小班

2018 年 7 月 23 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ヤチダモ林 (河畔林)		平坦		1	1		累積 1.5	シカ道・足跡
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	92 /200 m ²	61.6 m ² /ha	49 /200 m ²	食痕: 34 / 49	69%	54 /200 m ²	3 / 92	3% (2%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	440 /200 m ²	127 / 220	58%		66	18%・147・0%	104.0%・0.95	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
エゾヤナギ	1	3,088		
イタヤカエデ	68	2,758	36	
ケヤマハンノキ	7	1,962	4	
オノエヤナギ	2	1,698	1	
ハリギリ	2	1,522		
総計	92	12,313	49	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
ヤチダモ	109	58
シナノキ	35	30
イタヤカエデ	31	10
モイワボダイジュ	9	6
ミズナラ	8	4
総計	221	127

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クサソテツ	7	0.197	20	104.3	3
クマイザサ	4	0.253	18	147.0	0
ヤチダモ	15	0.076	11	57.9	9
ツタウルシ	6	0.040	10	26.2	0
ヨブスマソウ	14	0.162	10	113.3	1



上川北部 02 は、風連・班溪地区の林道沿い沢沿いのヤチダモ林 (河畔林) に設定された。周辺の SPUE は累積 1.5 と低い、調査時にシカ道、足跡の痕跡が確認された。エゾヤナギの大木や小～中径木のイタヤカエデからなる。林床はクマイザサが散生するほか、クサソテツやヤチダモなどの木本類も目立つ。

立木の本数密度は 92 本、下枝本数は 49 本だった。下枝食痕率は 69% と高かった。新規の樹皮剥ぎ率は 2% だった。広葉樹の稚樹は 127 本/200 m² と高密度で、ヤチダモが多く、シナノキやイタヤカエデも多い。稚樹の食痕率は 58% と高かった。林床の総被度は 104.0% と高く、クマイザサの被度は 18%、林床の現存量の指数は 0.95 だった。ササの食痕率は 0% だった。シカによる下枝・稚樹の食痕率は 6-7 割程度と極めて高く、特に稚樹は夏季の食痕が高く、夏場の採餌場として利用されていると思われる。現状では下枝や稚樹は豊富だが、今後、シカによる被食が継続されれば、林分構造や林床植生への影響が現われる可能性がある。

上川北部 03 の結果概要

地区名：風連・班溪 78 林班か小班

2018 年 7 月 26 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)	エゾシカの痕跡
広葉樹林(湿性林)	平坦		1	2	2016 年 2.8	累積 3.3 シカ道・糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)
	41 /200 m ²	41.9 m ² /ha	23 /200 m ² 食痕:5/23 22%		19 /200 m ²	0/37 0%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²
	5 /200 m ²	1/5 20%		27	79% ・138・ 20%	96.9% ・ 1.27

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ハルニレ	3	3,939	1	
ダケカンバ	2	2,367		
ハシドイ	24	661	16	
ヤチダモ	1	609		
キハダ	1	351		
総計	41	8,373	24	

稚樹調査結果

種名	本数(本)	食痕あり (本)
トドマツ	11	
シナノキ	2	1
イタヤカエデ	1	
ハシドイ	1	
ハリギリ	1	
総計	16	1

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	1.135	79	137.5	4
ノリウツギ	4	0.028	3	97.5	3
ジュモンジシダ	6	0.010	2	36.3	0
トドマツ	4	0.027	2	71.3	0
シナノキ	1	0.012	2	78.0	1



上川北部 03 は、風連・班溪地区の道道沿いに面した平坦地の広葉樹林に設定された。周辺の SPUE は 2.8 と低めだが、調査時にシカ道、糞の痕跡が確認された。ハルニレやダケカンバ、ハシドイ、ヤチダモなどが多く、湿性の広葉樹が優占する。林床はクマイザサが密生する。

立木の本数密度は 41 本、下枝本数は 23 本だった。下枝食痕率は 22% だった。新規の樹皮剥ぎ率は 0% だった。広葉樹の稚樹は 5 本/200 m² で、食痕率は 20% だった。林床の総被度は 96.4% でクマイザサの被度は 79%、林床の現存量の指数は 1.27 だった。ササの食痕率は 20% だった。シカによる各種の食痕率はいずれも 2 割で、同地区の他調査地に比べて低い。現状では、シカの影響は限定的と思われる。

上川北部 04 の結果概要

地区名：風連・班溪 88 林班れ小班

2018 年 7 月 26 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面	東	1	2	2016 年 1.8	累積 3.2	シカ道・糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	70 /200 m ²	66.5 m ² /ha	39 /200 m ²	食痕: 18 /39	46%	33 /200 m ²	1 /48	2%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	56 /200 m ²	31 /56	55%		49	39%・105・5%	76.7% ・ 0.69	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
トドマツ	20	5,735	6	
モイワボダイジュ	24	3,503	23	
エゾヤマザクラ	3	1,405	2	
イチイ	1	874		
イタヤカエデ	8	630	5	
総計	70	13,295	45	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
トドマツ	44	
シウリザクラ	37	24
ノリウツギ	7	3
オニグルミ	2	
モイワボダイジュ	2	
総計	101	31

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
チシマザサ	20	0.466	39	104.8	1
オオカメノキ	15	0.041	8	41.8	8
イワガラミ	12	0.017	7	20.3	0
モイワボダイジュ	7	0.072	6	101.7	4
トドマツ	7	0.025	3	40.0	0



上川北部 04 は、風連・班溪地区の林道沿い斜面の針広混交林に設定された。周辺の SPUE は累積 1.8 と低い、調査時にシカ道、糞の痕跡が確認された。主にモイワボダイジュ、イタヤカエデの広葉樹と針葉樹のトドマツが混交する。林床はチシマザサが散生～密生するほか、オオカメノキ、イワガラミなどの低木類やツル木本類も多い。

立木の本数密度は 70 本、下枝本数は 39 本だった。下枝食痕率は 46% だった。新規の樹皮剥ぎ率は 0% だった。広葉樹の稚樹は 56 本/200 m² でシウリザクラが多く、食痕率は 55% だった。林床の総被度は 76.7% でチシマザサの被度は 39%、林床の現存量の指数は 0.69 だった。ササの食痕率は 5% だった。シカによる下枝・稚樹の食痕率はいずれも 5 割前後でかなり高い。現状では、下枝や稚樹は豊富だが、今後、シカによる被食が継続されれば、林分構造や林床植生への影響が現われる可能性がある。

上川北部 05 の結果概要

地区名：奥名寄 298 林班ろ小班

2018 年 7 月 24 日調査実施

林相	地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)	エゾシカの痕跡
針広混交林	平坦		1	1	2016 年 4.7	累積 6.3 個体 1・シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率		小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)
	38 /200 m ²	38.1 m ² /ha	22/200 m ² 食痕:18/22 82%		21 /200 m ²	2/29 7%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率	林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²
	326 /200 m ²	45/163 28%		51	43%・95・15%	99.5%・0.79

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ケヤマハンノキ	3	5,328	3	
トドマツ	9	859	5	
ミズナラ	3	823	1	1
イタヤカエデ	12	256	10	
アカイタヤ	2	181		
総計	38	7,627	27	2

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
イタヤカエデ	101	31
シナノキ	19	4
ヤチダモ	10	1
アズキナシ	9	2
シウリザクラ	5	1
総計	165	45

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	16	0.424	43	95.3	3
イタヤカエデ	16	0.134	13	66.7	7
マイヅルソウ	16	0.009	7	12.2	0
ハウチワカエデ	8	0.077	6	81.0	3
ヤチダモ	9	0.030	6	33.1	3



上川北部 05 は、奥名寄地区の林道沿い斜面上部平坦地の針広混交林に設定された。周辺の SPUE は累積 4.7 と比較的高く、調査時にシカ道が確認され、シカも目撃された。ケヤマハンノキ、トドマツ、ミズナラ、イタヤカエデなどが混生する。林床はクマイザサが散生～密生するほか、イタヤカエデやハウチワカエデなどの高木木本類も目立つ。

立木の本数密度は 38 本、下枝本数は 22 本だった。下枝食痕率は 82%だった。新規の樹皮剥ぎ率は 0%だった。広葉樹の稚樹は 326 本/200 m²と高密度で、イタヤカエデやシナノキなどが多く、食痕率は 28%だった。林床の総被度は 99.5%でクマイザサの被度は 43%、林床の現存量の指数は 0.79 だった。ササの食痕率は 15%だった。シカによる下枝食痕率は 8 割を超えて極めて高かったが、稚樹は豊富で食痕率が低かったことから、主に積雪期の利用が考えられた。

上川北部 06 の結果概要

地区名：奥名寄 246 林班つ小班

2018 年 7 月 24 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面	南	1	2	2016 年 13.4	累積 6.5	シカ道・足跡・糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	45 /200 m ²	69.5 /ha	22 /200 m ²	食痕: 16 /22	73%	5 /200 m ²	10 /36	28%(0%)
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	58 /200 m ²	31 /58	53%		43	25%・69・35%	74.6% ・	0.48

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
モイワボダイジュ	12	6,574	7	7
トドマツ	9	3,164	2	
アズキナシ	3	1,241	1	
ホオノキ	8	1,226	5	2
アカイタヤ	1	369		
総計	45	13,900	24	10

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
イタヤカエデ	14	11
ヤチダモ	14	5
トドマツ	6	
ナナカマド	6	6
ハウチワカエデ	5	3
総計	64	31

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	11	0.224	25	69.2	7
サラシナショウマ	15	0.038	8	27.4	0
オシダ	6	0.032	6	52.0	0
イワガラミ	15	0.009	5	15.1	0
オクノカンスゲ	11	0.009	4	21.6	0



上川北部 06 は、奥名寄地区の林道沿い斜面の針広混交林に設定された。周辺の SPUE は 13.6 と極めて高く、調査時にもシカ道、足跡、糞の痕跡が確認された。主にモイワボダイジュやトドマツなどが混交する。林床はクマイザサが散生～疎生するほか、サラシナショウマやオシダの草本類も目立つ。

立木の本数密度は 45 本、下枝本数は 22 本だった。下枝食痕率は 73% と高かった。新規の樹皮剥ぎ率は 0% だったが古い痕跡は 28% と高かった。広葉樹の稚樹は 58 本/200 m² でイタヤカエデやヤチダモが多く、食痕率は 53% だった。林床の総被度は 74.6% でクマイザサの被度は 25%、林床の現存量の指数は 0.48 だった。ササの食痕率は 35% だった。シカによる各種の食痕率は高く、樹皮剥ぎやササの食痕が多いことから、積雪期の利用が多いと考えられる。現在もシカの影響が見られるが、今後にもよる被食が継続されれば、より林分構造や林床植生への影響が顕著になると考えられる。

上川北部 07 の結果概要

地区名：奥名寄 284 林班ら小班

2018 年 7 月 24 日調査実施

林相			地形		方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡	
針広混交林			斜面		南	2	2	2016 年 5.2		累積 6.5	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率					小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	36 /200 m ²	57.5 /ha	12.5/200 m ² 食痕: 14/25 56%					14 /200 m ²	1/38 3%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率			総被度・現存量 m ³ /m ²	
	51 /200 m ²	11/51 22%				45	41%・92・70%			96.1% ・ 0.63	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ミズナラ	7	7,363	5	
トドマツ	23	6,469	7	
ダケカンバ	8	4,452		
イタヤカエデ	4	1,141	2	
ホオノキ	8	982	8	1
総計	71	22,994	34	1

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
ヤチダモ	22	3
トドマツ	15	1
ハシドイ	9	3
アズキナシ	3	
ハリギリ	3	
総計	67	12

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.413	41	91.7	14
イワガラミ	17	0.025	13	20.4	0
サップロスゲ	12	0.030	10	29.9	0
トドマツ	9	0.034	4	37.6	1
ジュウモンジシダ	3	0.018	3	40.3	0



上川北部 07 は、奥名寄地区の林道沿い斜面の針広混交林に設定された。周辺の SPUE は 5.2 と高めで、調査時にシカ道が確認された。主にミズナラ、ダケカンバの広葉樹と針葉樹のトドマツなどが混交する。林床はクマイザサが散生～密生するほか、イワガラミやサップロスゲなども目立つ。

立木の本数密度は 36 本、下枝本数は 12.5 本だった。下枝食痕率は 56%と高かった。新規の樹皮剥ぎ率は 0%だった。広葉樹の稚樹は 51 本/200 m² でヤチダモやハシドイが多く、食痕率は 22%だった。林床の総被度は 96.1%でクマイザサの被度は 41%、林床の現存量の指数は 0.63 だった。ササの食痕率は 70%と高かった。シカによる下枝・ササ類の食痕率が高いことから、積雪期の利用が多いと考えられる。今後、シカによる被食が継続されれば、より林分構造や林床植生への影響が現われると考えられる。

上川北部 08 の結果概要

地区名：然別・前珊瑚 231 林班か小班

2018 年 7 月 25 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林		斜面	南	1	2	2016 年 10.2	累積 5.4	シカ道・糞
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	81 /200 m ²	61.0 /ha	23/200 m ² 食痕:9/23 39%			14 /200 m ²	0/49 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	20 /200 m ²	3/20 15%			38	12%・72・5%	50.4% ・ 0.37	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ミズナラ	26	5,393	9	
トドマツ	28	4,830	19	
エゾマツ	4	658	2	
アズキナシ	8	656	4	
ケヤマハンノキ	1	336	1	
総計	81	12,193	44	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
トドマツ	35	
エゾマツ	12	
ミヤマザクラ	5	1
ナナカマド	4	
ミズナラ	4	
総計	68	3

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	15	0.101	12	71.9	1
イワガラミ	11	0.014	6	18.1	1
コヨウラクツツジ	11	0.053	5	77.0	6
オオカメノキ	12	0.043	4	33.8	4
ハナヒリノキ	7	0.032	4	55.3	0



上川北部 08 は、然別・前珊瑚地区の林道沿い斜面の針広混交林に設定された。周辺の SPUE は累積 10.2 と高く、調査時にシカ道、糞の痕跡が確認された。主にミズナラとトドマツ、エゾマツが混交する。林床はクマイザサが散生するほか、ツツジ類やオオカメノキの低木類も目立つ。

立木の本数密度は 81 本、下枝本数は 23 本だった。下枝食痕率は 39%だった。新規の樹皮剥ぎ率は 0%だった。広葉樹の稚樹は 20 本/200 m²でミヤマザクラやナナカマドなどが目立ち、食痕率は 15%だった。林床の総被度は 50.4%でクマイザサの被度は 71.9%、林床の現存量の指数は 0.37 だった。ササの食痕率は 5%だった。シカによる下枝食痕率は比較的高く、他の食痕率は低かったが、低木類には食痕が目立っており、他地区に比べて利用は少ないものの、シカによる影響を受けていると考えられる。ササ類が少なく針葉樹の割合も高いため、食痕は少ないが、積雪期に越冬地利用していることも考えられる。

上川北部 09 の結果概要

地区名：然別・前珊瑚 217 林班お小班

2018 年 7 月 25 日調査実施

林相			地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡		
針広混交林			斜面	南東	1	2	2016 年 10.2		累積 5.4	シカ道・足跡	
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率				小径木 5cm 未満		樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)		
	43 /200 m ²	50.0 /ha	29/200 m ² 食痕 :15/29 52%				20 /200 m ²		3/36 8%(0%)		
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率			林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率			総被度・現存量 m ³ /m ²	
	49 /200 m ²	25/49 51%				36	52%・123・0%			111.2% ・ 1.12	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
トドマツ	5	3,652	2	
エゾマツ	1	2,703		
キハダ	3	988		1
キタコブシ	3	650	2	
オニグルミ	1	544		
総計	43	10,000	31	3

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
シウリザクラ	36	22
アズキナシ	3	1
イタヤカエデ	3	2
シナノキ	3	
キタコブシ	2	
総計	49	25

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.689	52	123.4	0
オオカメノキ	11	0.224	23	82.2	6
イワガラミ	13	0.048	9	25.6	0
サップロスゲ	10	0.018	5	26.3	0
オシダ	4	0.027	4	72.0	0



上川北部 09 は、然別・前珊瑚地区の林道沿い斜面の針広混交林に設定された。周辺の SPUE は 10.2 と高く、調査時にシカ道、足跡が確認された。主に針葉樹のトドマツ、エゾマツとキハダやキタコブシの広葉樹が混交する。林床はクマイザサが散生～密生するほか、オオカメノキも多い。

立木の本数密度は 43 本、下枝本数は 29 本だった。下枝食痕率は 52%だった。新規の樹皮剥ぎ率は 0%だった。広葉樹の稚樹は 49 本/200 m²でシウリザクラが多く、食痕率は 52%だった。林床の総被度は 111.2%でクマイザサの被度は 52%、林床の現存量の指数は 1.12 だった。ササの食痕率は 0%だった。シカによる下枝・稚樹の食痕率はいずれも 5 割を超えてかなり高い。現状では、下枝や稚樹は比較的残っているが、今後、シカによる被食が継続されれば、林分構造や林床植生への影響が現われる可能性がある。

上川北部 10 の結果概要

地区名：然別・前珊瑚 17 林班そ小班

2018 年 7 月 25 日調査実施

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ヤチダモ林(河畔林)		平坦		1	2	2016 年 1.5	累積 4.8	シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	45 /200 m ²	45.1 /ha	26/200 m ² 食痕:5/26 19%			18 /200 m ²	0/43 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	36 /200 m ²	19/36 53%			72	19%・135・0%	93.3% ・ 0.74	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果

種名	本数 (本)	総BA (c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ヤチダモ	12	5,962	1	
ケヤマハンノキ	2	1,784	2	
イタヤカエデ	29	1,247	23	
トドマツ	2	36	2	
総計	45	9,029	28	

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
イタヤカエデ	15	10
ハルニレ	10	5
シウリザクラ	5	4
ミズナラ	3	
オニグルミ	2	
総計	36	19

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	4	0.232	17	134.5	0
ヨブスマソウ	18	0.090	9	90.4	2
アキタブキ	6	0.071	8	80.2	0
ツルアジサイ	15	0.007	7	8.3	0
ムカゴイラクサ	20	0.022	6	30.9	1



上川北部 10 は、然別・前珊瑚地区の沢に面した林道沿いのヤチダモ林 (河畔林) に設定された。周辺の SPUE は累積 1.5 と低い、調査時にシカ道が確認された。主に上層をヤチダモ、ケヤマハンノキが占め、亜高木層をイタヤカエデが占める。林床はクマイザサが一部に密生～散生するほか、ヨブスマソウやアキタブキなどの大型草本も見られる。

立木の本数密度は 45 本、下枝本数は 26 本だった。下枝食痕率は 19% だった。新規の樹皮剥ぎ率は 0% だった。広葉樹の稚樹は 36 本/200 m² でイタヤカエデやハルニレが多く、食痕率は 53% だった。林床の総被度は 93.3% でクマイザサの被度は 17%、林床の現存量の指数は 0.74 だった。ササの食痕率は 0% だった。シカによる下枝食痕率は高く、特に夏季の食痕率が高く主に夏季の利用が高いと考えられる。

檜山 01 の結果概要 地区名：檜山北 1409 林班に小班 2010 年 8 月 26 日／2018 年 7 月 9 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ブナ林		尾根	北西	2 1	1 2	2010 年 1.7 2018 年 1.3	累積 1.6 累積 1.6	食痕 なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	46.5/200 m ²	25.0 m ² /ha	26 /200 m ² 食痕: 0/26 0%			28.5/200 m ²	1/93 1%(0%)	
	66/200 m ²	61.4 m ² /ha	48 /200 m ² 食痕: 12/48 25%			29/200 m ²	6/66 9%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	27/200 m ²	0/27 0%			39	30%・78・53%		56.1%・0.35
	26/200 m ²	3/26 12%			59	17%・67・ 0%		36.9%・0.18

※数値の上段は 2010 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※BA は胸高直径断面面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA (c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ブナ	23	8,101	15	2
エゾヤマザクラ	4	1,379	3	
ミズナラ	2	994	2	
ホオノキ	2	683		
アカイタヤ	8	379	6	
総計	66	12,272	48	6

稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
アカイタヤ	11	3
アオダモ	4	
ブナ	3	
アズキナシ	2	
トチノキ	2	
総計	26	3

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	18	0.115	16	66.6	0
オオバクロモジ	14	0.013	2	39.9	0
ヒカゲスゲ	11	0.008	2	29.5	0
ツルアリドオシ	5	0.002	2	9.2	0
マイヅルソウ	15	0.002	1	10.1	0



檜山 01 は、檜山北地区の林道沿いのブナ林に設定されている。SPUE は前回、今回とも 2 以下となっている。足跡の確認は大雨のためできなかった。ブナの優占度は高いが、エゾヤマザクラやミズナラなどの広葉樹が混生する。林床は、散生するクマイザサにオオバクロモジなどが混生する。

立木の本数密度は 47 本から 66 本に、下枝本数も 26 本から 48 本にそれぞれ増加した。下枝食痕率は 0% から 25% に増加した。新規の樹皮剥ぎはブナなどで見られ、9% とやや高かった。広葉樹の稚樹は 27 本/200 m² から 26 本/200 m² とほとんど変化しなかったが、食痕率はやや増加した。しかし、樹皮剥ぎ率に比して、下枝や稚樹の食痕率はそれほど高くなかった。林床のクマイザサの被度は 30% から 17% に減少し、それに伴って林床の現存量の指数も大きく低下したが、ササの食痕率は大きく低下した。シカによる林分構造や林床植生への影響は、今のところ顕在化していない。

檜山 08 の結果概要 地区名：厚沢部 233 林班か小班 2010 年 8 月 29 日／2018 年 7 月 9～10 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ブナ林		平地		1 1	1 2	2010 年 0	累積 0.4	なし なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	46/200 m ²	85.5 m ² /ha	27 /200 m ² 食痕: 0/27 0%			19/200 m ²	0/46 0%(0%)	
	42/200 m ²	58.0 m ² /ha	26 /200 m ² 食痕: 0/26 0%			20/200 m ²	1/43 2%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	21/200 m ²	0/21 0%			16	54%・102・0%	119.7% ・0.83	
	14/200 m ²	0/14 0%			23	33%・118・0%	90.1% ・0.76	

※数値の上段は 2010 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ブナ	5	4,843	2	
ミズナラ	5	4,024	1	
ホオノキ	2	921		
アカイタヤ	3	692	1	1
アズキナシ	1	556		
総計	42	11,597	26	1

稚樹調査結果

種名	本数(本)	食痕あり (本)
ブナ	7	
トドマツ	2	
ハウチワカエデ	2	
ミズナラ	2	
トチノキ	1	
総計	14	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	19	0.367	29	117.9	0
オオカメノキ	18	0.192	25	62.7	0
ハイヌツゲ	19	0.055	13	34.8	0
エゾユズリハ	17	0.025	7	32.8	0
ハイヌガヤ	9	0.026	4	44.0	0



檜山 08 は、厚沢部地区の林道沿いのブナ林に設定されている。前回の SPUE は 2 以下となっている (今回情報なし)。足跡の確認は大雨のためできなかった。ブナに加えて、ミズナラ、ホオノキなどの広葉樹が混生する。林床は、散生するクマイザサにオオカメノキなどの木本類が混生する。

立木の本数密度、下枝本数ともそれぞれほとんど変化していなかった。下枝食痕率は前回、今回とも 0% だった。新規の樹皮剥ぎはアカイタヤ 1 本で見られた。広葉樹の稚樹は 21 本/200 m² から 14 本/200 m² とやや減少したが、食痕率は前回、今回とも 0% だった。林床のクマイザサの被度は 54% から 33% に減少し、それに伴って林床の現存量の指数も低下したが、ササの食痕率は前回、今回とも 0% だった。シカによる林分構造や林床植生への影響は、ほとんど見られない。

檜山 09 の結果概要 地区名：厚沢部 393 林班ろ小班 2010 年 9 月 2 日／2018 年 7 月 13 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ブナ林		斜面	南	2 2	4 4	2010 年 0 2018 年 1.5	累積 0 累積 0.1	食痕 なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	26/200 m ²	27.3 m ² /ha	9.5/200 m ² 食痕: 0/10 0%			5/200 m ²	0/52 0%(0%)	
	58/200 m ²	60.8 m ² /ha	32 /200 m ² 食痕: 1/32 3%			21/200 m ²	0/58 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	7/200 m ²	0/14 0%			21	54%・109・0%		85.5%・0.85
	2.5/200 m ²	0/26 0%			31	68%・122・0%		112.2%・1.21

※数値の上段は 2010 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ミズナラ	10	3,365		7
シナノキ	9	2,978		6
ホオノキ	14	2,777		5
コシアブラ	1	1,076		
ミズキ	3	775		2
総計	58	12,152	32	

稚樹調査結果

種名	本数(本)	食痕あり (本)
トチノキ	2	
ヤマウルシ	2	
ブナ	1	
総計	5	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.862	68	122.2	0
ハイイヌガヤ	15	0.121	15	66.1	0
オオカメノキ	7	0.097	7	116.6	0
ヒメアオキ	14	0.024	6	34.9	0
シンガシラ	9	0.014	5	24.6	0



檜山 09 は、厚沢部地区の林道沿いのブナ林に設定されている。SPUE は前回、今回とも 2 以下となっている。調査時に足跡等の痕跡は確認できなかった。二次林でブナの優占度は低く、ミズナラやシナノキなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが優占し、ハイイヌガヤなどが混生する。

立木の本数密度は 26 本から 58 本に、下枝本数も 10 本から 32 本にそれぞれ増加した。下枝食痕率は 0% から 3% に増加した。新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は 7 本/200 m² から 3 本/200 m² に減少したが、食痕率は前回、今回とも 0% だった。林床のクマイザサの被度は 54% から 68% に増加し、それに伴って林床の現存量の指数も増加した。ササの食痕率は前回、今回とも 0% だった。シカによる林分構造や林床植生への影響は、ほとんど見られない。

檜山 10 の結果概要 地区名：厚沢部 514 林班ほ小班 2010 年 9 月 2 日／2018 年 7 月 13 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ブナ林		尾根側斜面	北	1 1	1 2	2010 年 0 2018 年 ー	累積 3 累積 0.3	シカ道・食痕 なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	63/200 m ²	39.0 m ² /ha	43/200 m ² 食痕: 0／43 0%			38/200 m ²	0／63 0%(0%)	
	56/200 m ²	38.8 m ² /ha	40/200 m ² 食痕: 0／40 0%			31/200 m ²	0／56 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	44/200 m ²	0／44 0%			35	16%・59・15%		75.2% ・0.58
	19/200 m ²	1／26 5%			45	34%・114・0%		81.1% ・0.73

※数値の上段は 2010 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積値

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ブナ	36	6,444	23	
ケヤマハンノキ	1	1,102	1	
ハウチワカエデ	12	115	12	
アカイタヤ	3	61	1	
アズキナシ	2	12	2	
総計	56	7,755	40	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
ブナ	7	
アズキナシ	4	
アオダモ	3	
アカイタヤ	2	1
ナナカマド	1	
総計	19	1



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
チシマザサ	16	0.292	25	113.8	0
オオカメノキ	16	0.093	14	56.9	0
オオバクロモジ	13	0.100	10	77.6	0
クマイザサ	10	0.067	10	68.8	0
ホツツジ	7	0.051	5	80.4	0

檜山 10 は、厚沢部地区の林道沿いのブナ林に設定されている。前回の SPUE は 2 以下となっている (今回情報なし)。調査時に足跡等の痕跡は確認できなかった。ブナの優占度は高いが、ハウチワカエデなどの広葉樹が混生する。林床はチシマザサが散生し、オオカメノキなどが混生する。

立木の本数密度は 63 本から 56 本に、下枝本数も 43 本から 40 本にそれぞれ微減した。下枝食痕率は前回、今回とも 0% だった。新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は 44 本/200 m² から 19 本/200 m² に減少したが、食痕率は低かった。林床のチシマザサの被度は 16% から 34% に増加し、それに伴って林床の現存量の指数も増加した。ササの食痕率は前回 15% だったが、今回は 0% だった。シカによる林分構造や林床植生への影響は、ほとんど見られない。

檜山 12 の結果概要 地区名：上ノ国 2082 林班に小班 2010 年 8 月 26 日／2018 年 7 月 10 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ブナ林		斜面	南西	1 1	1 1	2010 年 1.8 2018 年 2.5	累積 1.7 累積 1.4	なし なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	96/200 m ²	37.4 m ² /ha	68 /200 m ² 食痕: 0/68 0%			60 /200 m ²	0/96 0%(0%)	
	61 /200 m ²	36.8 m ² /ha	53 /200 m ² 食痕: 1/53 0%			29 /200 m ²	0/61 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	74 /200 m ²	0/37 0%			26	21% ・35・ 0%	72.1% ・ 0.23	
	66 /200 m ²	0/33 0%			41	10% ・39・ 0%	43.4% ・ 0.18	

※数値の上段は 2010 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値

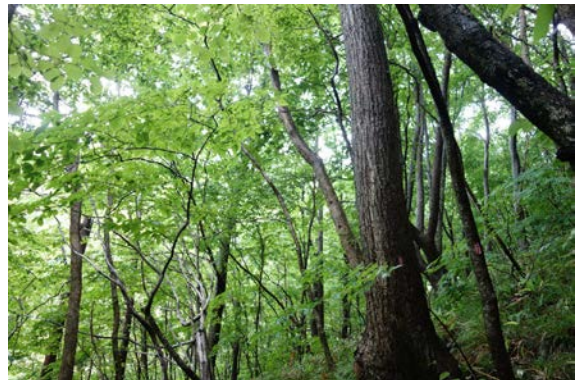
毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
シナノキ	8	4,167	8	
ミズナラ	4	1,152	3	
エゾイタヤ	2	760	1	
ブナ	8	505	8	
サワシバ	17	422	14	
総計	61	7,358	53	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
ハウチワカエデ	11	
サワシバ	8	
エゾイタヤ	4	
ブナ	4	
ヤマモミジ	3	
総計	33	



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	19	0.040	10	38.6	0
サワシバ	7	0.040	6	46.4	0
ハウチワカエデ	4	0.035	5	73.5	0
ヒカゲスゲ	13	0.015	4	27.8	0
ヒメカンスゲ	13	0.008	4	17.8	0

檜山 12 は、上ノ国地区の林道沿いのブナ林に設定されている。前回の SPUE は 2 以下だが、今回は 2.5 だった。調査時に足跡等の痕跡は確認できなかった。二次林でブナの優占度は低く、シナノキやミズナラなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生し、サワシバなどが混生する。

立木の本数密度は 96 本から 61 本に、下枝本数も 68 本から 53 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は前回、今回とも 0% だった。新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は 74 本/200 m² から 66 本/200 m² に減少したが、食痕率は前回、今回とも 0% だった。林床のクマイザサの被度は 21% から 10% に減少し、それに伴って林床の現存量の指数も減少した。ササの食痕率は前回、今回とも 0% だった。シカによる林分構造や林床植生への影響は、ほとんど見られない。

檜山 16 の結果概要 地区名：木古内 3097 林班ぬ小班 2010 年 8 月 28 日／2018 年 7 月 12 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ブナ林		尾根筋	北東	1 1	1 2	2010 年 0	累積 0	なし なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	79/200 m ²	40.5 m ² /ha	44/200 m ² 食痕: 0／44 0%			46/200 m ²	0／79 0%(0%)	
	63/200 m ²	41.8 m ² /ha	33/200 m ² 食痕: 0／33 0%			33/200 m ²	0／63 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	26/200 m ²	0／26 0%			18	11%・88・0%	111.7%・0.76	
	13/200 m ²	0／13 0%			24	11%・121・0%	75.5%・0.62	

※数値の上段は 2010 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ブナ	13	5,919		7
コシアブラ	2	705		
ハウチワカエデ	34	539		22
ミズナラ	4	473		
ホオノキ	1	313		
総計	63	8,358		33

稚樹調査結果

種名	本数(本)	食痕あり (本)
ハウチワカエデ	7	
アカイタヤ	2	
ブナ	2	
アオダモ	1	
ヤマモミジ	1	
総計	13	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
オオカメノキ	13	0.137	16	70.8	0
リョウブ	15	0.135	14	77.7	0
オオバクロモジ	10	0.093	10	76.3	0
チシマザサ	12	0.110	9	121.4	0
ツルシキミ	20	0.022	6	29.7	0



檜山 16 は、木古内地区の林道沿いのブナ林に設定されている。前回の SPUE は 0 だった（今回情報なし）。調査時に足跡等の痕跡は確認できなかった。ブナの優占度は高いが、コシアブラやハウチワカエデなどの広葉樹が混生する。林床はチシマザサが散生し、オオカメノキなどが混生する。

立木の本数密度は 79 本から 63 本に、下枝本数も 44 本から 33 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は前回、今回とも 0% だった。新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は 26 本/200 m² から 13 本/200 m² に減少したが、食痕率は前回、今回とも 0% だった。林床のチシマザサの被度は前回、今回とも 11% で、林床の現存量の指数はやや減少した。ササの食痕率は前回、今回とも 0% だった。シカによる林分構造や林床植生への影響は、ほとんど見られない。

檜山 17 の結果概要 地区名：木古内 3205 林班と小班 2010 年 8 月 27 日／2018 年 7 月 12 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ブナ林		斜面	北東	1 1	2 2	2010 年 0 2018 年 —	累積 0 累積 0.7	なし なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	46/200 m ²	58.7 m ² /ha	33/200 m ² 食痕: 0/33 0%			24/200 m ²	0/46 0%(0%)	
	33/200 m ²	60.4 m ² /ha	23/200 m ² 食痕: 0/23 0%			16/200 m ²	0/33 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	15/200 m ²	0/15 0%			17	14%・71・0%		70.9% ・0.42
	9/200 m ²	0/9 0%			29	13%・93・0%		76.7% ・0.75

※数値の上段は 2010 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ブナ	24	11,012	17	
ミズナラ	1	475		
ハウチワカエデ	4	174		3
ホオノキ	1	166		
シナノキ	1	135		1
総計	33	12,085	23	

稚樹調査結果

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
ブナ	6	
ハウチワカエデ	2	
ヤマモミジ	1	
総計	9	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
ハイヌガヤ	18	0.475	39	107.0	0
クマイザサ	14	0.090	9	92.8	0
オオバクロモジ	11	0.057	6	66.8	0
シンガシラ	5	0.019	5	36.6	0
ミヤマカンスゲ	8	0.012	4	28.4	0



檜山 17 は、木古内地区の林道沿いのブナ林に設定されている。前回の SPUE は 0 だった (今回情報なし、累積は 0.7)。調査時に足跡等の痕跡は確認できなかった。ブナの優占度は高いが、ミズナラなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生し、ハイヌガヤなどが混生する。

立木の本数密度は 46 本から 33 本に、下枝本数も 33 本から 23 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は前回、今回とも 0% だった。新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は 15 本/200 m² から 9 本/200 m² に減少したが、食痕率は前回、今回とも 0% だった。林床のクマイザサの被度は 14% から 13% に微減したが、林床の現存量の指数は増加した。ササの食痕率は前回、今回とも 0% だった。シカによる林分構造や林床植生への影響は、ほとんど見られない。

檜山 18 の結果概要 地区名：福島 4269 林班と小班 2010 年 8 月 24 日／2018 年 7 月 11 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ブナ林		斜面中	西	1 1	1 2	2010 年 0 2018 年 2.2	累積 4.2 累積 2.8	シカ道・その他 シカ道
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	36/200 m ²	27.0 m ² /ha	30/200 m ² 食痕: 1／30 3%			18/200 m ²	1／36 3%(3%)	
	32/200 m ²	25.4 m ² /ha	24/200 m ² 食痕: 9／24 38%			16/200 m ²	0／33 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	47/200 m ²	7／47 15%			51	8%・61・7%		60.7% ・0.33
	11/200 m ²	3／11 27%			67	8%・61・0%		49.5% ・0.35

※数値の上段は 2010 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ブナ	13	3,025	9	
ケヤマハンノキ	2	1,350	1	
ウワミズザクラ	1	296	1	
ヤマモミジ	4	175	3	
ハウチワカエデ	8	137	6	
総計	32	5,080	24	



稚樹調査結果-主な樹種

種名	本数(本)	食痕あり (本)
ブナ	3	1
アオダモ	2	2
キタコブシ	2	
コシアブラ	1	
トドマツ	1	
総計	11	3



林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
ハイイヌガヤ	11	0.243	24	83.0	0
クマイザサ	15	0.058	8	60.7	0
ミヤマカンスゲ	8	0.012	4	22.0	0
エゾユズリハ	3	0.014	4	35.0	0
ヒカゲスゲ	5	0.007	2	25.8	4

檜山 18 は、福島地区の林道沿いのブナ林に設定されている。前回の SPUE は 0 だが、今回は 2.2 だった。調査時にシカ道等の痕跡が確認された。ブナの優占度は高いが、ケヤマハンノキなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生し、ハイイヌガヤなどが混生する。

立木の本数密度は 36 本から 32 本に、下枝本数も 30 本から 24 本にそれぞれ減少した。下枝食痕率は 3% から 38% に増加した。新規の樹皮剥ぎは今回、見られなかった。広葉樹の稚樹は 47 本/200 m² から 11 本/200 m² に減少、食痕率は 15% から 27% に増加した。林床のクマイザサの被度は前回、今回とも 8% で、林床の現存量の指数は微増した。ササの食痕率は 7% から 0% になった。シカによる林分構造や林床植生への影響はまだ顕著ではないが、前回より目立つようになってきている。

檜山 20 の結果概要 地区名：福島 4198 林班へ小班 2010 年 8 月 24 日／2018 年 7 月 11 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
ブナ林		斜面中	西	1 1	1 2	2010 年 5.3 2018 年 1.4	累積 5.0 累積 3.0	食痕・糞 なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率(新規)	
	83/200 m ²	78.6 m ² /ha	45/200 m ² 食痕: 0/45 0%			45/200 m ²	2/83 2%(0%)	
	74/200 m ²	78.2 m ² /ha	48/200 m ² 食痕: 8/48 17%			36/200 m ²	0/74 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数(新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率		総被度・現存量 m ³ /m ²
	27/200 m ²	4/27 15%			31	58%・107・30%		104.4% ・0.86
	8/200 m ²	3/8 38%			42	37%・101・5%		53.6% ・0.50

※数値の上段は 2010 年調査結果。※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値

毎木調査結果-主な樹種

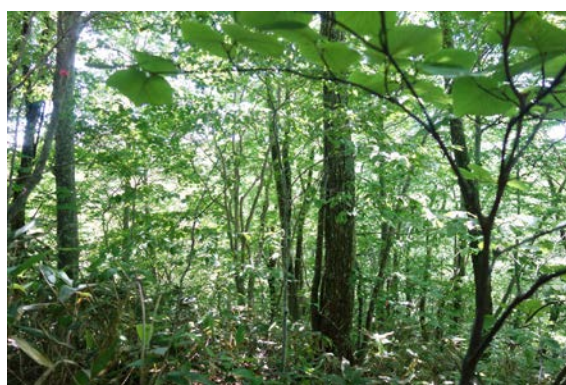
種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ミズナラ	7	8,791		3
ブナ	20	3,015		17
ハウチワカエデ	43	1,690		28
ホオノキ	1	1,104		
アカイタヤ	2	905		
総計	74	15,645		48

稚樹調査結果

種名	本数(本)	食痕あり (本)
ブナ	6	2
アオダモ	1	1
ハウチワカエデ	1	
総計	8	3

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形 区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕 区数
クマイザサ	20	0.389	37	100.8	1
オオカメノキ	15	0.048	4	39.2	7
ブナ	6	0.037	2	80.5	1
オオバクロモジ	15	0.010	2	39.8	11
ミヤマカンスゲ	18	0.004	2	15.3	10



檜山 20 は、福島地区の林道沿いのブナ林に設定されている。前回の SPUE は 5.3 だが、今回は 2 以下だった。調査時に足跡等の痕跡は確認できなかった。ブナ、ミズナラ、ハウチワカエデなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生～密生し、オオカメノキなどが混生する。

立木の本数密度は 83 本から 74 本に減少、下枝本数は 45 本から 48 本に微増した。下枝食痕率は 0% から 17% に増加した。新規の樹皮剥ぎは今回、見られなかった。広葉樹の稚樹は 27 本/200 m² から 8 本/200 m² に減少、食痕率は 15% から 38% に増加した。林床のクマイザサの被度は 58% から 37% に減少し、それに伴って林床の現存量の指数も減少した。ササの食痕率は 30% から 5% に減少した。シカによる林分構造や林床植生への影響はまだ顕著ではないが、他地区より目立っている。

檜山 21 の結果概要

地区名：大野

2145 林班い小班

2018 年 7 月 13 日調査

林相		地形	方位	毎木区	稚樹区	シカ密度 (SPUE 頭/人日)		エゾシカの痕跡
針広混交林				1	2		累積 1.8	なし
毎木	本数密度	総 BA	下枝本数、食痕数、率			小径木 5cm 未満	樹皮剥ぎ本数、樹皮剥ぎ率 (新規)	
	53 /200 m ²	152.2 /ha	35/200 m ² 食痕 : 1 / 35 3%			21 /200 m ²	0 / 53 0%(0%)	
稚樹	本数密度	食痕数 (新規)、食痕率		林床	種数	ササ被度・高さ・食痕率	総被度・現存量 m ³ /m ²	
	17 /200 m ²	0 / 17 0%			30	18%・71・0%	53.0% ・ 0.35	

※稚樹は樹高 30cm 以上のもののみ集計。※総 BA は胸高直径断面積合計値。

毎木調査結果-主な樹種

種名	本数 (本)	総BA(c m ²)	下枝あり (本)	樹皮はぎ (本)
ブナ	18	16,877	12	6
ミズナラ	7	10,921	5	2
ホオノキ	15	2,135	7	8
アオダモ	1	174	1	
ヤマモミジ	6	116	4	2
総計	53	30,433	35	18

稚樹調査結果

種名	本数 (本)	食痕あり (本)
エゾイタヤ	6	
ハウチワカエデ	5	
ブナ	3	
トチノキ	2	
コシアブラ	1	
総計	17	

林床植生調査結果-主な植物

種名	方形区数	現存量 (m ³ /m ²)	被度 (%)	平均高 (cm)	食痕区数
クマイザサ	17	0.092	11	70.8	0
オオカメノキ	8	0.036	7	32.6	0
チシマザサ	11	0.078	6	88.7	0
ハイヌガヤ	8	0.023	6	35.5	0
ミヤマカンスゲ	8	0.011	4	24.8	0



檜山 21 は、大野地区の林道沿いのブナ林に新規に設定した。SPUE のデータはない (累積は 1.8)。調査時に足跡等の痕跡は確認できなかった。比較的発達したブナ林で、ミズナラ、ホオノキなどの広葉樹が混生する。林床はクマイザサが散生し、オオカメノキなどが混生する。

立木の本数密度は 53 本、下枝本数は 35 本だった。下枝食痕率は 3% だった。新規の樹皮剥ぎは見られなかった。広葉樹の稚樹は 17 本/200 m²、食痕率は 0% だった。林床のササ (クマイザサ+チシマザサ) の被度は 18%、林床の現存量の指数は 0.35 だった。ササの食痕率は 0% だった。シカによる林分構造や林床植生への影響は、ほとんど見られない。